

# りべらしおん

研究所ニュース

No.47

「りべらしおん」は、フランス語で「解放」という意味です。

発行：社団法人 福岡県人権研究所

〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13-50 福岡県吉塚合同庁舎内 TEL 092-645-0388 FAX 092-645-0387

Mail:fukuokajinkenken@happy.odn.ne.jp URL:<http://www2.odn.ne.jp/fukuokajinkenken/>



大光寺本堂前で記念写真

## 「人権プロジェクト石瀧塾」ファイールドワーク ～歴史散歩 吉塚・馬出を歩く～

八月二日（日）一三時

例年この時期にファイールドワークを行って  
いる。今回は吉塚、馬出界隈を歩いた。あい  
にくの空模様であったが、二一名の参加者が  
あり、吉塚駅前から出発した。

まず向かったのは、駅南にある吉塚地蔵堂。  
戦国時代の合戦の首塚と言われている。

次に、妙見に行き、筑前竹槍一揆勢も通つ  
た道沿いにある千代森神社に。ここは稻荷を  
祀り、妙見はその異名であるので、地名に  
なったという。福岡県部落解放センターの玄  
関にある松本治一郎の銅像を見て東公園へと  
向かった。

東公園は、一九八一年の県庁移転に伴い、  
二一ヘクタールから七ヘクタールに縮小され  
たが、公園内には、蒙古襲来にちなむ龜山上  
皇像や日蓮像、仙崖歌碑、幕末から明治にか  
けての戦死者の靈を神式で祀った招魂社跡、  
記念碑などが点在する。

また、昭和天皇の即位を記念して作られた  
動植物園もあったが、その名残は馬出小学校  
のゾウの頭部が飾られた旧校門にとどめてい

る。

東公園を出て、全九州水平社創立大会が開かれた博多座跡に向かった。ここに芝居小屋があつたということは、歌舞伎役者が奉納した手水鉢などが残っていることからも分かる。

創立大会は、五月一日に開催されたが、労働者の祭典であるメーデーの日に合わせたといふ。

その後、案内してもらわないと分かりづらい、民家奥にある芭蕉の辞世の句が刻まれた句碑と、黒田騒動のエピソードを飾る「お綱」の供養碑を見学し、道具山神社と白山大權現を訪ねた。白山大權現では氏子の方たちが、放生会の準備をされていたが、快く絵馬を見せてくれた。現在では、寺中子供会の名で奉納されているが、以前の絵馬は「寺中町」の名で奉納されており、江戸時代の寺中と呼ばれた役者集団（歌舞伎役者）がこの一帯に住んでいたことが分かる。



奉納された絵馬



崇福寺山門

松本治一郎生家跡を経て、大光寺にある福岡連隊事件の犠牲者、藤岡正右衛門と、徳川家達公爵暗殺未遂事件の犠牲者、松本源太郎の墓を尋ね、大光寺本堂の前で記念撮影をした後、九州大学医学部構内に向かった。

構内には、秀吉の九州征伐の際、千利休が野点をした遺跡の笠掛け松や記念碑がある。また、歌人長塚節の歌碑や大学関係者の銅像などもある。

最後に訪れたのは、黒田家の菩提寺である横岳山崇福寺。山門は福岡城本丸表御門、唐門は名島城の門をそれぞれ移築したものである。墓地には黒田家の墓の他、玄洋社社員の墓や玄洋社員銘塔などがある。

『リベラシオン』（一三八〇一四二号）の執筆者と読者の初めての交流会が、二〇一一年七月三十日（土）にココロンセンターで行われ、七名の執筆者を含む計十四名が参加しました。

交流会では、「事務局の人手不足で取材力が乏しい」「若い書き手を発掘した方がよいのではないか。大阪の研究会では若い人が多い。教育大でも部落研などの社会問題系のサークルが減り、大谷さんのようなNGO等に若い人材が流れている」「部落問題→人権一般、在日問題→多文化共生と名称を変えることで、若者が取つきやすくなつた」「予定調和ではなく、本当の子どもたちの声をどう引き出すか」「これまで学校教育で扱われてこなったセクシャリティを題材にした授業実践を」といった活発な意見が出されました。

小・中学校教員の参加者が多く、教育現場の話に重点が置かれ、教員以外の参加者が議論に入りにくかったものの、有松しづよさんの植民地朝鮮国策映画研究にも高い関心が寄せられ、今後も上映会継続を期待する声があ

小雨交じりの中でのフィールドワークではあったが、都市部に残る普段見過ぎがちな遺跡等に出会った一日であった。

## リベラシオン執筆者・読者の交流会

がりました。



筆者と読者の交流会で意見を交換

アンケートでは、「韓国併合一〇〇年を機に考える」や「大学の人権・同和教育」などの特集に注目が集まっていました。



インタビューに応じる小山寛さん

## 〔インタビュー〕 「見て知りそ 知りてな見そ」

(柳宗悦)

### — 小山寛さんのお話 —

「福岡市企業同和問題推進協議会」(以下、「同推協」)の歴史について、発足初期から関わられた小山寛さん(元福岡シティ銀行社員、福岡市同推協第一回『BRIGHT』小委員会メンバー、元福岡県講師団講師)にお話を伺いました。

や官業に関する情報収集のためでした。この行為に對して運動体や行政などからの厳しい指摘を受け、福岡市の場合は昭和五三年六月に民間企業八社主体で「福岡市企業同和問題推進協議会(同推協)」が誕生しました。

福岡市の「同推協」と、他の地区の「企同推(企業内同和問題研修推進委員会)」は若干異なります。「企同推」は主に職安主体ですが、福岡市の「同推協」は企業主体です。「同企連(同和問題に取り組む全国企業連絡会)」というのは全国組織で福岡市の同推協も加入しています。

福岡市は行政と運動体の窓口が一つなので、企業主体でも運営しやすかったようですが、他の地域は複数の運動体に対しても窓口が必要であつたため、職安主体になつたと思います。

「同推協」の主な目的は会員の人権研修と雇用の促進です。大阪同企連の加入社数は約一四〇社、東京は約一三〇社に対して、福岡市は四二二社(ピーク時は二〇〇〇年の四九六社、その後会社の合併、支店閉鎖などで減少)と福岡市は他県に比べて加入企業数が多いです。大阪よりも福岡のほうが比較的に会費が安いからかもしれません。

### 1. 福岡市「同推協」の特色

かつて福岡県内でいくつかの企業が「部落地名綱監」を購入したところが発覚しました。企業がこのような用子を購入するのは、採用時

### 2. 「福岡市企業同和問題推進協議会」の主な事業

- ・「同和問題第一次研修会」(同和問題が初めての人対象の研修会、研修用テキスト『ブライト』刊行)

- ・「同和問題第二次研修会」(一次研修を受けてから「～三年経過した人を対象)
- ・「同和問題啓発セミナー」(人事、総務、研修担当者の相互交流と学習の場)
- ・「同和問題研究会」「雇用問題研究会」(『ライト』の編集)

### 3. 「ライト」の編集について

従来の行政の用字は分厚くて読みにくい印象があつたので、硬い表現を避け、余白を作り、イラストを入れ、目を引く太鼓を表紙にするなど、読みやすく工夫しました。また、導入部分は身近な人権問題から入るように、徐々に同和問題についての認識を深めるようにもしました。

### 4. 小山さん自身の経験

自分の家の近くに同和地区がありました。地元では同和地区に対しての理解が薄く、最初は自分が同和問題に取り組んでいることを家族にも言えませんでした。十年くらい取り組まないと、人の意識はなかなか変わらないと思いました。「同推協」活動の現地学習で初めてT地区に行つた時、初めは何を聞かれてあまり話さないようにしようと思つていましが、地区の方から「あんた、何も話すまいと思って来てるやろ」と言われてしましました。

T地区的Tさんから「肉体労働者は日頃か

ら大きな声を出して現場で働いているから、日常生活の中でも同じように声が大きくなるのは仕方がない。外の人から『あいつらは徒党を組んでやつてくる』と言われるが、立場が弱いのでそんならダメえないと」言われ、今までには(徒党を組む)理由がわからないから怖かったのだと気付きました。私は講演で柳宗悦の「見て知りぞ 知りてな見そ」(先入観を持って見てはいけない)という言葉を紹介します。相手のことを知る前から決めつけのではなく、現地に行ってみれば、相手のことを知ることが大事だと思うようになったのです。

講演の最後は「情けは人のためならず」という言葉も紹介します。変に情けをかけると依存心が強くなるという意味ではありません。「情け」とは「本当の思いやり」であり、「思いやり」は人に伝わって、めぐらめぐつて自分にかえってくる、全ては自分事であり、他人を大切にすることは、自分も大切にされるということです。

5. 今後の展望

これからはもっと、企業内で人権に関する内部講師の育成に力をいれて欲しいと思います。チラシには冒頭『女性の人権』と記されているので特に男性には嫌われたか?』

また、「今後ジャンダー部会で扱つてほしい

## 二〇一一年度第一回ジエンダー部会 —映画に学ぶ女性の人権—

(報告：船津建さん)

二〇一一年度の第一回ジエンダー部会が八月二〇日(土)にココロンセンターで行われました。今回は「映画に学ぶ女性の人権」というテーマで、韓国映画『あなたは遠いところに』(二〇〇八年)を映像資料として、『リベラシオン』の映画紹介でお馴染みの船津建さん(会員)に報告していただきました。参加者からのアンケート評価も高く、以下のような感想が寄せられました。

「映画の背景など説明して頂いて、感動が深くなりました。ありがとうございました」「わかりにくかった映画がなんとなく近づいてきた感じです」「提案者の情熱や深い洞察力で映画をより理解できました」「参加するようになつて一～二年経ちますが、『ジエンダー』を前面に出した講座は初めてのよう気がします。そのせいか人が少ないような、特に男性。チラシには冒頭『女性の人権』と記されているので特に男性には嫌われたか?」

「テーマ」としては、「男女共同参画に関すること何でも」「底辺層の女性がどう生きるべきなのか?現実と絡めてのところを扱ってほしい」といった要望が上がっていました。



報告される船津健さん

今回の船津建さんのご報告は『リベラシオン』一四四号(十二月号)の映画紹介に掲載予定ですので、ご期待下さい。

次回のジャンパー部会は十月二十二日(土)コロンセンター交流室で、横田武子さんのご報告(遊女の身売証文の紹介、現在の飛田新地(赤線地帯)の状況報告など)です。どなたでもご参加頂けますので、皆様のご参加をお待ちしております。

## 外国人部会 報告

九月四日一五時から、今年度第二回目の外国人部会を研究所で行つた。参加者は一〇名。今回は安河内信子さんに北朝鮮訪問記について報告していただいた。安河内さんは、日朝友好協会の団員として昨年、今年と二度北朝鮮を訪問している。「行く前は北朝鮮に対する偏見がすごくあった。しかし実際行ってみて、体制の違いで国民を見てはいけない。人々の暮らしはどこも同じ。食べるため働く、誰でも幸せを願っている。そういうふうに北朝鮮を見るとみんな同じだと思った。当たり前のことに気づかされた」と語った。以下、訪問記を紹介する。

### 二度目の北朝鮮

安河内 信子

平壌の朝は早い。ホテルの窓から見える通りには、夜明け前から仕事に行く人達の姿が見える。今回の訪朝は二度目であり、どこか懐かしく、金さん、ウンギヨンさんとの再会も嬉しい。町を歩く人々の服装もお洒落な人が目立つようになり、車も増えた。信号機が動き、平壌名物であるびしばし動く美人信号機が見られないのがちょっと寂しい。

今年の訪問先は、いつものコースの他に水製造工場や靴下工場などオートメーション化

された工場、果樹農場、夜の遊園地、障害者保護施設、どれも北朝鮮が発展していることをアピールするものだ。オートメーション化された工場は珍しくないが、水を作る工場を見たのは初めてだ。遊園地では照明が煌々と輝き、怖くてとても乗る気のしないアトラクションが所狭しと並んでいる。そして、どのアトラクションも若者が長々と並んでいた。ゲーセンは特に悪い。夜も遅いのに学齢期と思しき子どもが並んでいる。明日は学校だろうに。



靴下工場で作業をする女性。綺麗にお化粧をしてなかなかおしゃれだ

果樹農場はすごい。まさに国営農場だ。日本との果樹園とは規模が違う。収穫したリンゴは冷蔵保存したり乾燥させてチップにしたりする。豚を飼つて年間一〇〇〇tの肉を生産し、排泄物は肥料として使う。水と混ぜて農

場を張り巡らせたパイプから樹間に植えた植物の上に点滴するそうだ。

私は果物の栽培について素人だが、疑問がいくつかある。まず、樹間がとても狭い。日本であれば日がよく当たるよう樹間は広くし、収穫しやすいよう枝を低く横に広げる。それに摘果して大きな実をつけるよう工夫している。ここでは樹間が極めて狭く果実は鈴なりになっている。消毒も気になった。国交が結ばれて、日本の技術を受け入れたらもっと美味しいリンゴが収穫できるのではないかと思つた。ここで鶯の声が聞こえた。そこで下手な句を一句「鶯の声を聞きつづリンゴ園」。

それにしても、去年と比べて今年は随分食べ物が豊富になつたと感じる。とりわけ、私たちの食事や飲み物はそうだ。もういい、と言ふほど沢山出てくる。最後の昼食でお腹いっぱいになつたところでビビンバが出てきたのには参つた。残すのは悪いと思ひ頑張つて食べたが残してしまつた。北朝鮮にはまだ十分に食べられない人もいると聞く。この国の国民が十分に食べられるようになることは、今の政権が続くためにはまず必要ではないかと思つた。

障害者保護施設では、義足でも卓球をしたり、耳が聞こえなくても音楽に合わせて踊つたりしている。すごいことだと思った。指導者はおっかなそうな女性。びしばしと指揮棒で合図をして学生たちが踊る。体をくねらせ、

微妙な動きも表現できる。多少音楽に合わなくて、衣装の美しさと子ども達の頑張りが見えて、それは全く気にならない。



耳は聞こえないけれど指揮に合わせて踊る学生たち。

最終日、早朝、ホテルを出発し、車は綺麗に舗装された並木道を空港を目指して走る。車窓からは苗が育つ緑豊かな田園が目に入る。去年は耕した後のこげ茶色一色だったことを思い出す。働く人々の姿は見えないけれど、一生懸命に働く人々の願いを感じる。大雨や台風が来ませんように、無事に沢山の収穫ができますように」と私も願う。そして、国交のない北朝鮮に私達の足跡を残したいものだと考へながら機上の人となつた。

## 青木新門さん講演会

アカデミー賞外国語映画賞（二〇〇九年二月）を受賞した「おくりびと」のモデルとなった『納棺夫日記』の著者、青木新門さんの講演会「いのちのバトンタッチ」が九月一日に福岡市早良市民センターで開かれた。主催は「NPO法人がんを学ぶ青葉の会」。

講演で青木さんは、満州で終戦を迎えた時、父はシベリア抑留、母と弟妹自分の四人は収容所に入れられた。乳飲み子だった弟はそこで死亡、母親はチフスにかかり隔離された。妹と二人きりでいたある日、妹も息を引き取ってしまう。当時八歳だった青木さんは妹の亡骸を背負い死体を処理する場所に置いてきたという。幸い母が退院し二人で日本に引き揚げることができた。数年後、偶然みた長崎の原爆展で八歳くらいの少年が亡骸になつた幼い弟を負ぶって立つている写真を見た。幼い頃、満州で妹の亡骸を負ぶって置いてきた自分の姿と重なり号泣した。自分にとつて死は身近な存在であった。大学を中退、結婚し子どもができた時、作家を志望していたが生計をたてるために一〇年ほど納棺夫として働いた。その時の体験を『納棺夫日記』として出版。一九九六年に本木雅弘さんがこの本を読んで映画化を決意し、二〇〇八年に本木さん主演で映画化された。

「当初は脚本が原作と異なるので映画化を拒否した。しかし本木さんの誠実さと熱心さに心を動かされて承諾した」「納棺夫をしていることが親戚に分かった時『親族の恥』だと言われた。『死』は誰にでも訪れる。にもかかわらず死に関わる仕事は『穢れ』と見なされ忌み嫌われてきた。昔はほとんどの人が自宅で死を迎えたが、今は九割以上が病院で死を迎える。今の人々は死を知らない人が多い。若い人たちには死を頭だけで考え、身体で知る機会が少ない。事故でも自死でも亡くなつた方の直後のお顔はとても安らかで美しいものだ。死を直視して生を知る。死を通じて命はバトンタッチされていく。死を知ることは命の尊さを知ることでもある」と語った。

## 遠賀町の「読み書き教室」

「高齢者の方で文字を習いたいが、識字教室はありませんか。」という問い合わせから、この教室は始まりました。しかし、当時遠賀町には識字教室がなく、近隣市の教室を紹介しましたが、高齢で公共交通機関を利用しての参加は難しいというお話をでした。

文字が読めないために、生活する上で必要な情報や、安全に関する情報を得ることでの想いから「読み書き教室」を立ち上げました。



「読み書き教室」での学習

### 新会員紹介

- ・ 田中線一（小倉北区）
- ・ 橋垣秀則（嘉麻市）

### お願い

● 10月は、研究所の行事が盛りだくさんです。図書販売や企画展、ハートフルフェスタなど、ボランティアスタッフを募集しています。協力していただける方は、ぜひひよこ連絡ください。

● 会費未納の方に、機関誌やニュースとともに振り込み用紙を送らせていただいております。会費振り込みをよろしくお願いします。

● 会員の方で、住所変更やお届け先変更等がございましたら、連絡をお願いします。

### 新会員の勧誘にご協力下さい。

機関誌『リベラシオン』裏表紙に「入会のご案内」が掲載されています。別紙の入会案内がご入用の場合は事務局までお申し出下さい。

教室：遠賀町中央公民館（遠賀郡遠賀町 大字今古賀五ー三番地／遠賀町役場横）

開催日・時間

毎週金曜日一四時～一五時三〇分

主催：問い合わせ

遠賀町教育委員会生涯学習課

電話 093-293-1234

## 研究所日誌(2011年8月～9月)

- ・8月 8日(月) 事務局会
- ・8月 8日(月) 県同教夏期講座(後援)(図書販売)
- ・8月10日(水) ハートフルフェスタ福岡2011打合せ 19～
- ・8月11日(木) 北九州市企画展打合せ 16:30～
- ・8月12日(金) 川向先生来所
- ・8月13日(土)～15日(月) お盆閉局
- ・8月17日(水) 新宮町住民意識調査の打合せ
- ・8月20日(土) ジェンダー部会(ココロンセンター) 13:30～
- ・8月21日(日) 人権プロジェクト「石清塾」フィールドワーク 13～
- ・8月22日(月) 事務局会 芦屋町住民意識調査打合せ 運営委員会
- ・8月24日(水) 北九州市企画展事務局会 16～
- ・8月25日(木) 第8回松本・井元研究会 18:30～
- ・8月26日(金) 役員会 14～
- ・8月27日(土) 第2回糸島地区人権・同和教育研究大会(登壇)
- ・8月31日(水) 外園監事・横山理事来所
- ・9月 4日(日) 外国人問題部会 14～  
　　第20回宗像地区「同和」教育研究集会(後援)
- ・9月 5日(月) 事務局会
- ・9月 9日(金) 川向先生来所 『リベラシオン』143号校了
- ・9月11日(日) 編集委員会(ココロンセンター) 14～
- ・9月12日(月) 事務局会 運営委員会
- ・9月17日(土) 教育部会(堅粕人権のまちづくり館) 14～
- ・9月18日(日) 執行理事会 14～
- ・9月21日(水) 全国人権ネット打合せ 11:30～
- ・9月22日(木) 北九州市企画展史料選定 13:30～
- ・9月27日(火) 人権プロジェクト「石清塾」18:30～
- ・9月29日(木) 北九州市企画展史料選定 13:30～
- ・9月30日(金) 第9回松本・井元研究会 18:30～